

第2回 日本抗体学会学術大会 プログラム

会期：2023年12月1-3日（金、土、日）

会場：ライカ南国ホール（JR鹿児島中央駅より直結）

12/1（金）

12:30-12:40 開会の辞（日本抗体学会会長）

- 12:40-13:00 笠原慶亮（東京大学）Fab抗体とNanobodyのスーパーチャージによる物性・機能改質
- 13:00-13:20 芦田 仁己（株式会社エヌビーイー健康研究所）GPCR 特異的抗体を迅速・高効率に取得する革新的技術
- 13:20-13:40 Aaron K. Sato（Twist Bioscience）Functional DKK1 antibodies demonstrate antagonistic and tumor suppression activities
- 13:40-14:00 萩原真二（ペルセウスプロテオミクス）抗TfR1抗体PPMX-T003の分子キャラクタリゼーション及び血液がんにも及ぼす薬効評価
- 14:00-14:20 江崎寛季（名古屋大学）難治性がん腫の克服を目指したがん微小環境を標的とする抗体薬物複合体の研究開発
- 14:20-14:40 飛知和 弦輝（鳥取大学）染色体工学技術の抗体研究への応用（4）完全ヒト抗体産生動物 x フェージディスプレイ法による腸組織移行性抗体の獲得および次世代抗体医薬品への応用

14:40-15:10 コーヒーブレイク（ポスタービューイング）30分

- 15:10-15:35 児玉瀧彦（東京大学）デュオカルマイシンを用いた抗体ミメティクス結合薬
- 15:35-16:00 片山和彦（北里大学）ウイルス感染症治療薬としてのVHH
- 16:00-16:25 土井尚人（株）イーベック）ウイルス変異に強いヒト末梢血由来抗体の特徴について
- 16:25-16:50 土屋政幸（Epsilon Molecular Engineering）アゴニスト抗体創薬の挑戦

16:50-17:50 ポスター発表（奇数）

17:50-18:50 ポスター発表（偶数）

12/2（土）

- 9:30-9:50 前田佳夕（京都大学）VHH抗体提示T7フェージライブラリーの作製と鏡像VHH抗体の探索
- 9:50-10:10 田畑耕史郎（北海道大学）IgA抗体の自己重合反応による四量体形成とその応用
- 10:10-10:30 小澤龍彦（富山大学）In silicoで改変したUT28KはSARS-CoV-2オミクロンBA.1に対して中和活性を回復した
- 10:30-10:50 森岡弘志（熊本大学）環状一本鎖抗体を構成ユニットとする二重特異性T細胞誘導抗体の創製と評価

10:50-11:20 コーヒーブレイク（ポスタービューイング）30分

- 11:20-12:05 倉持太一（中外製薬）中外の抗体技術とモノづくり力を生かした抗体創薬
- 12:05-12:30 黒川智文（大正製薬）VHHの創薬研究・開発 — ナノゾラを一例として —

17. 12:30-12:55 金田靖行（第一三共）DXd ADC の技術開発と臨床応用の現状

12:55-13:55 昼食（ランチョンセミナー60分）

株式会社エービー・サイエックス（メイン会場）

東ソー株式会社（サテライト会場）

18. 13:55-14:20 中西 猛（大阪公立大）二重特異性抗体デザインにおける Ig ドメインの連結

19. 14:20-14:45 立花太郎（大阪公立大）高性能モノクローナル抗体作製法の開発と応用

20. 14:45-15:10 真壁幸樹（山形大）蛋白質連結と特異的ペアリングによる多様な二重特異性抗体の構築技術

15:10-15:40 コーヒーブレイク（ポスタービューイング）30分

21. 15:40-16:05 前田真吾（シスメックス）抗体分子の結合速度定数の向上のための基盤技術開発とその応用

22. 16:05-16:30 渡邊秀樹（産総研）抗体の変性構造を認識する小型人工タンパク質：高次構造品質分析への展開と分析原理

23. 16:30-16:55 小泉智信（理研）アカデミアの成果を社会実装する産学官の立場を経験して

16:50-17:50 ポスター発表（奇数）

17:50-18:50 ポスター発表（偶数）

12/3（日）

24. 9:30-9:55 原谷健太（中外製薬）革新的抗体医薬品創出における薬物動態の重要性

25. 9:55-10:20 木吉真人（国立衛研）FcRn カラムを用いた抗体医薬品の特性解析

26. 10:20-10:45 清水芳実（帝京平成大）組換えビフィズス菌を利用した抗がん剤開発

10:45-11:15 コーヒーブレイク（ポスタービューイング）30分

27. 11:15-11:40 菊池信介（協和キリン）バイオ医薬品におけるプロセス開発の最前線

28. 11:40-12:05 内山進（大阪大）抗体医薬品の安定性における残された課題

29. 12:05-12:30 吉川 弘樹（テルモ）医薬品開発における包装容器の重要性

12:30-13:30 昼食（ランチョンセミナー60分）

日本ウォーターズ株式会社（メイン会場）

株式会社 Epsilon Molecular Engineering（サテライト会場）

30. 13:30-13:55 大澤賢太郎（日立ハイテック）3次元ホモダイク検出法を用いたサブミクロン凝集体のハイスループット分析

31. 13:55-14:20 加藤且也（日本特殊陶業）表表面修飾多孔質ジルコニアビーズへの抗体分子の選択的吸着と効率的精製への応用

32. 14:20-14:45 大野侑香（東ソー）抗体を用いた診断試薬の開発と高感度化への取り組み

33. 14:45-15:10 松永康祐（埼玉大）インシリコモデリングへ向けた VHH 抗体の分子シミュレーション

34. 15:10-15:35 Eliud Oloo (Schrodinger) The Role and Impact of Computational Modeling in the Design and Development of Antibody-based Therapeutics

35. 15:35-16:00 浜松 典郎（レボルカ）機械学習を駆使した進化分子工学：aiProtein による高性能タンパク質

デザイン

16:00 閉会の辞（日本抗体学会副会長）*ポスター賞表彰を含む